

JAが核となった肉用牛農家の担い手育成と子牛の価値の向上

～地域の肉用牛生産基盤の強化と経営安定～

宮崎県

肉用牛

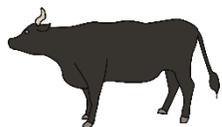
・JAが牛舎や堆肥舎を整備し、繁殖雌牛とともに担い手(繁殖農家)にリース。初期投資を低減することで、地域の和子牛生産基盤の強化を実現。

・JAが老朽化した肥育センターを補改修し、受入頭数の増加等の機能強化により、地域の和子牛を買い支えるほか、子牛の体重別価格調査や飼料分析の結果などを経営に還元し、地域一体となった子牛価格の向上に取り組む。

①地域の現状

- ・繁殖農家の後継者不足が深刻であり、担い手育成による地域の生産基盤強化が必要
- ・繁殖農家の経営安定のため、市場で高く売れるような、購買者にとって魅力ある子牛づくりが求められる

1. 地域の繁殖雌牛頭数の減少



6,500頭(H19)
→ 4,500頭以下(R5)

2. 地域市場における子牛価格の低迷



飼料価格高騰や枝肉相場等の影響により、5年間で子牛価格が3割以上低下

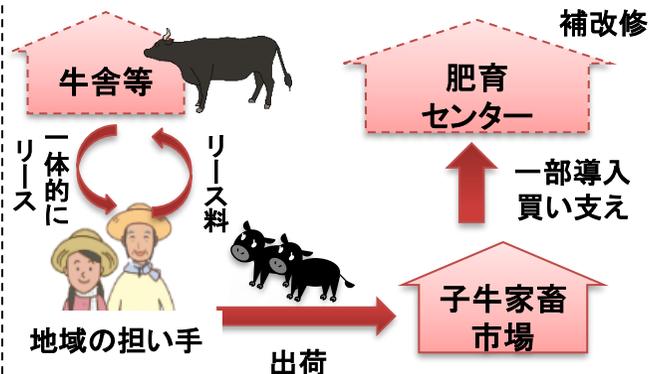
②取組内容・目標

- ① 地域を支える担い手が育成され、繁殖雌牛頭数が増加(量的効果)
- ② データに基づく飼養管理により、子牛の品質・価格が向上(質的効果)
→①×②の相乗効果で繁殖経営の安定を図る

クラスター協議会(事務局:JA)

①肥育センターを補改修、担い手へ施設と家畜をリース (施設整備事業)

目標:枝肉・子牛販売額の増加等



②子牛価格向上に向けた調査(実証支援事業)

目標:子牛市場における子牛体重の増加等

1. 牛群管理への指導

県畜産協会
NOSAI

経営データ分析
獣医師による指導

繁殖農家

2. 飼料・土壌分析

普及センター

作付体系の検討

繁殖農家

3. 出荷牛の追跡調査

繁殖農家
生産者部会

成績調査・意見交換

購買者
(県外含む)

③目指す地域の姿

地域で子牛の資質が向上し、子牛市場が活性化することで、担い手の経営が安定